

(様式2(1))

事業所名 グループホームあつたか家族

作成日: 令和 2 年 10 月 8 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23   (12)	利用者との日々の関わりの中で、事故を未然に防ぐためのヒヤリハットには積極的に取り組み、周知を図っているが、喜びや癒し、良い体験への取り組み、その周知には至っていなかった。	「毎日が楽しい」と利用者を感じていただけるように、日々の暮らしの中で利用者の喜びに気づき、職員皆で周知実践していく。	現在のヒヤリハットと同じ方法(記録・周知・集計・モニタリング)を実施。 ネイミングを”ニヤリホット”とする。	1ヶ月
2	35   (17)	災害時、職員が施設に駆け付けられるように緊急連絡網等の整備はしているが、交通、通信が遮断され、応援者のない状況でも施設にいる職員が自身の判断で行動できるような災害行動マニュアルの作成がない。	応援者がいない中でも、施設にいる職員が、自身の判断で行動できるように、災害対策を万全なものにしていく。	災害行動マニュアルを早急に作成する。	2ヶ月
3	49   (22)	毎日のように買い物や散歩に出かけていた方が、コロナ禍から外出が殆どできていなかった。	感染対策をしっかりと行いながら、人混みを避けた上、少しずつ外出の機会を増やしていく。 ※但し、コロナ禍の状況による。	コロナのことがあるので、まずは近隣の散歩から始めてみる。状況を見て、以前のような外出を目指していく。	1ヶ月
4	40   (19)	職員が利用者と共に食事する機会が月に何回かの企画食とおやつ作りのときに限られていたので、普段の食事を共に食べられていない。	利用者と職員が日々の食事を共にし、生活者としての一体感をもつ。	毎回の同席は難しいが、昼食時に一人でも同席するように業務内容の見直しを図る。	3ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。